夕刊
磐城新聞
四月二十一日發行
（日曜祭日翌日休刊）

隨筆　桃の花　上

鈴木章弘

桃の花は、櫻の花や梅の花のやうに大騷ぎされない。桃の花が咲いたからといつて、一瓢を携へて、桃花に浮かれだす者は、まア恐らくあるまい。梅は、その馥郁たる薰香と、霜をも恐れず百花に魁して開花する氣魄と、稜々たる雅趣とが尊ばれてゐる。櫻は、香もよく花もよく、且又、日本精神の象徴として、日本代表の花として、これを愛好することを、我等齊しく第一に推してゐる。ところが、桃の花になると、さうした點では、たしかに梅や櫻に劣つてゐる。これがゆゑに桃の花があまり尊ばれないのもいたしかたあるまい

しかし、桃の花を觀て、まつたくつまらぬ花だと思ふ者はあるまい。私は、桃の花には、桃の花獨自の美しさや風格等があつて、たまらなく好きである。風格といふと、どうも、堅く氣取つた風に思はれるかも知れぬから、情趣とでも改めてたからうか。兎も角、あの溫情に滿ちた平和な花の色あの一見、無表情のやうに見えて、その實、羞かんでゐるやうな枝ぶりが好きである。それに桃は、すつかり開花したところもよいが將に綻びんとした蕾がよいあの莟から拔け出して孕み膨らんだ先の紅！　あの色あの微笑、誰か好まずと云はん哉である

×

許六は、百花の譜に、桃の花を『爛漫と咲きみだれたる中にも首筋小耳のあたりに産毛の深き所ありて卑し』と、評してゐるが、これは、果してどうかと思はれる。なるほど、桃の花は化粧馴れぬ田舍娘的な感じはするが、一口に『卑し』と斷定するのは早計であらうそれが證據には、米國の俗語に、窈窕たる美人をピーチ（桃）といふ、といふさとである。尤も、私をして有り態にいはしめるならば窈窕たる美人を桃の花に喩へるのも、どうかと思ふのであるが……窈窕たる美人に最も相應しいのは、海棠であらう。あの雨に濡れたる海棠こそ、窈窕たる美人の精かと思はれる

私の驅引のない桃の花の感じは、十七、八のあどけない愛くるしい、柔和で健康な――いくぶん羞かみやではあるが未だどこか感性の鈍い洗練味の足りない、それでゐてもう色げは十分にある――豐滿な少女といつたところであらう

×

桃の花にも、白いものがある。――純白である。少し靑みを含でゐるやうな氣もするが、李の花よりも白い。杏や李の花を、一口に白いといふが、あれには薄い靑と黃とが含まれてゐはしまいか。私の知つてゐる範圍での、三四月の花で最も純白なのは、梨の花であると思ふ

人絹工場有大

珠雲　小野務卒

幾處高樓影不留
祝融作虐跡茫々
一朝中絶隆昌業
工女三千哭路頭

麥

志村信夫

灰色の空が雪を呼ぶ
その度に打ひしがるゝ麥
麥はそれ等の迫害の下になは希望の火を燃し續ける
春！
大地を蹴つて麥は伸びる
靑空を突き刺さんと
どこ迄も麥は伸びる

蝶

好間　鈴木欣々子

朝東風は麥生に蝶を放ちたる
蝶一ノ舞へり麥生の靜けさを
蝶舞へり麥生の風の匂ふとき

菜の花

やね替の人らが憩ふ菜の咲ける
菜の咲ける野にやね替は飯とせり

春の足おと　下

千葉しのぶ

ほッ、ジヨスランの子守唄が……
あゝ、もう、ねむい……
ねむい……
こゝまで言つて、彼女は舌打をしながら、二、三度かぶりを振つて、やがてすや〳〵と深い眠りに入つたやうだつた。隣の番犬が、頻にウ、と呻つて、軒の雨だれの音が夜氣に冴ゑて細く。屋根の雪が融けるらしい

×

よいお天氣だ。梅日和だ
軒端の福壽草が氣になるので、丹前のまゝで下駄をひつかけた。足袋をはかない [illegible]
う、春だ。それとも、氣分だけが春なのかな
どつちにしても、春だ、春だ
あなた、お散歩にいらつしやらない
海岸まで、ちよつと
御飯は大丈夫よ。お火弱くしてあるから
おこげ出來たつていゝでせう
あなたに食べさせやしないわよ
いゝわよ。あたし食べるわよ
ほら、ごらんなさい。波が、蟹にざれてるわ
向ふの岬、今朝はとてもよく見ねるわねえ
さう、さう、お約束忘れちやいやよ
空は青空　二人はわかい
今日は樂しい　ハンキング

4月22日

△米價の下落を圖らしむ（貞觀九）△カント生る（一、七二四）△倫敦海軍條約調印（昭和五）△下田で盛大な黒船祭行はる（同九）

力強き麥の息吹き
雄渾な麥の生命の躍動
敬虔の念にうたれて見つむる
病にやつれた私

講談　黃金魔乃（130）

高桑義生作　樋口悦也畫

奇緣の人々（一）

日本橋瓦花町の通りを、寛之助と、みづから御用聞と稱してゐる例のいなせな男と、連れ立つて歩いてゐた。おなじ日の黃昏しんしんと底冷わがする

『寛之助さん、夕飯時だ。そこらでやつて行かうと』

いふ

寛之助は默つてうなづいた二人は都鳥といふ小料理屋ののれんをくゞつた連れの男は酒ご飯をいひつけた。寛之助が飲まないといふので、自分一人手酌じやりながら

『あんたとわたしとは、まつたく奇妙な因緣ですぜ。この間の晩、車坂で會つたのが初めてのやうだが、實は、もつと前に逢つてゐる……！』

『あの晩、わたしはあんたと箕部の話を聞いてゐた。ずつと前から尾行てゐたのだ。驚いたね、ほんとうに驚いた……』

と、この奇怪な男は、更にその驚きを新たにしたやうな顏をする。そして

『あんたは、わたしを誰だと思ふ？』

『？？……』

寛之助は勿論誰ともわからないから、相變らず男の顏を見詰めたまゝ

『わからない？、まあ、わからないのは無理もないなわたしもお前さん達の話を聞いて、さてはあの時のはあんただつたのかと驚いたものだ』

と男は一人合點した

『わたしはあんたに謝罪らなくちやならねえ。あんたのやうな人を、それで今日まで苦しめたかと思ふとほんとうに濟まねえ氣がするのだ』

と男はしんみりとする

『いつたい、あなたは誰なんです？』

『わたしかね……』

『誰といふのはその事なのか、お染樣に逢はせるといつたのは、どうしたんです？』

『まあ、お待ちなさい。お染にも、お雪さんにも逢はせますよ。欺しやしませんよ』

『いつまでわたしは勝手に出歩いてゐられる身分ぢやないのですから』

寛之助はそれをしきりに氣にしてゐる

『あんたは何もあんな處に歸らなくてもいゝぢやありませんか』

『さうはいかない、約束は約束、人間の道ぢやない』

『なあに、彼奴等こそ人間ちやねえ。奴等はあんたやわたしの仇なんだ。寛之助さん、これからあんたやわたしや、お染や……みんな一緒になつて、奴等をやりつけるのだ』

さもよく知つてゐるやうに、お染を呼ぶこの男、そも〳〵何者なのであらう？

『あなたは誰だ？』

寛之助は同じ言葉を繰返した

『言ひませう。斯うなんだ長崎で、それ……霧の深い晩に、島原屋の屋敷外で、あんたと衝突つた、あの時の男なのだよ』

『？……』

寛之助、あまりにも意外な言葉に眼眸をみはつて息を呑んだ

『驚いたでせう。こりやあ誰だつて驚く。まつたく奇妙不思議なまはり合せだからね。きえんだ』

何ともいへない氣持で寛之助はもじ〳〵相手を見詰めてゐる

『嘘でも、出たらめでもない。誰が醉興にこんな出たらめをいふものか』

それはさうだらう。この男はみづからあの時の賊であることを自白してゐるのだ。淸涼宮の士圭、と拔荷買の祕密の帳簿を盜んで逃げたのはこの男だ男の口がまた動いた

廣告

素人料理　天下一品　マヅイ　おでん　榮ちやん　平町新田町　電話三三番

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス　天下一品散　平町ネヅミ坂角

特約店　桑原商店　『取次販賣帶ニ應ズ』

磐城名物　靈峰羊羹　小川郷驛前　平屋賣店

前田醫院　院長　前田清美　植田町電話一二四

松村醫院　院長　松村鐵郎　平町南町電一〇七

良品廉賣に勝る商略なし　磐城セメント特約代理店　和洋銅物　金物問屋　（久）釜屋商店　磐城國平町五丁目　電話九番　九九番　振替貯金口座　東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

醫學士　吉田久雄　吉田眼科醫院　平町紺屋町　電話六八番

國はニッポン・魚は濱魚　日本水産特約　御小賣　平製氷會社　電二二八・三二六番
鯛　エビ　白魚　アカサギ　銀鯛　甘鯛　甲イカ　鰹　北寄貝　帆立貝　目拔切身　うに貝燒
ヒノマル凍魚　平代理店　四丁目　ト印魚問屋　電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

時代の要求　皆樣の足!!　尼子タクシーへも豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便　是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行ﾞ直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目　尼子自動車商會　電話六四〇番

一の井別館落成
一の井田町へ出進以來未だ日淺い今日絕大なる御聲援を賜り有難お禮申上ます扨て離新館増築中の處愈々落成致しました御散策のお歸りには是非……
靜かなお座敷　氣輕な食堂　一の井　平町田町五　電一六七

石炭　一〇〇％サーヴ井ス　時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊　正味五十斤入一俵　金二拾八錢
特塊　同　同　金二拾五錢
品質が優良　目方が正確　デナケレバ　値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
▲市內は一俵より迅速に配達致シマス。
石炭　コークス　豆炭　（ツ）阿部石炭商店　電話三一七番

品質第一　電話二六八番　平牛乳舍　平町・九品寺前

家政婦會開設!!!
今般皆々樣の御勸めにより左記の所に家政婦會を開設致しました
經濟的！親切叮嚀！……モットーとして開設せる……
當會を何卒御利用下さい。
平町田町五番地（元郵便局裏）　昭和家政婦會　會主　秋元祥子　電話（呼）三十三番
◆會員募集◆
家政婦御希望の御方は至急御申込下さい。
一、入會は至極簡單で御座います。
一、詳細は御來談下さい。

產科　婦人科　外科　藥局
院長　木村寅次郎　醫學博士　內木宗八　藥劑師　大岩俊雄
入院隨意　病室完備　平町新川町十九番地　木村病院　電話一六四番

高久病院　平町田町（電話五三一番）
內科　外科　耳鼻咽喉科　レントゲン科　小兒科　花柳病科
醫學士　高久忠　新潟醫學士　赤羽淸　藥劑士　佐竹菊雄

送り物に　鰹節と干やなぎ　（一）魚問屋　平町四丁目　電一二三

新學期　通學服
新學期が近づきました。可愛らしい。坊チヤン、孃チヤン方の通學服を豐富に取揃へて　特價奉仕…

●黑小倉	1、20ヨリ
●同　（特製）	2、30ヨリ
●紺セル金釦服	3、60ヨリ
●紺セルKO型	4、00ヨリ
●第二、第三制服	3、60ヨリ
●紺セルセーラー服	2、60ヨリ
●防水マント	1、20ヨリ
●同　（袷）	1、65ヨリ

ふかや洋服店　平三　電203

開設以來六十有四年 文化を誇る通信殿堂
昨記念日の公開に賑ふ

平郵便局では昨二十日の遞信記念日に際し既報の如く午前九時より局內を公開し、一般の爲各種郵務取扱狀況の見學に供したが朝來の快晴に花見と併せての人出も多く入場者千二百七十五名に上り、例の模擬電信局や敏捷目にもとまらぬ電話交換事務等に驚異の眼を睜るなど非常な人氣を唆つて午後四時意義ある記念の催しを終つた

平局今昔譚

平郵便局は明治五年五月一日開局、同三十七年十一月十一日平郵便電信局、同三十九年五月二十一日特定三等局平郵便局、大正十一年二月十六日二等局平郵便局となつたもので明治二十二年十月一日田町九（現マーケット店舖）に局舍を設け、同三十九年二月十八日の大火にて類燒、一時田町石城郡役所內に移り、同年七月十日三丁目三二（現福島モーター出張所）に移轉、昭和五年九月十一日四丁目一一の現局舍へ新築移轉今日に至つた、事務開始は爲替明治八年一月一日貯金同九年一月一日、電信二十二年十月一日、電話四十二年十二月二十一日、保險大正五年十月一日、年金同十五年一月一日で明治五年開局以來六十有四年、遞送人の肩によつて郵便物を運搬した當時からあらゆる尖端的設備を誇る今日に至る間の發達變遷こそ實に言語に絕するものがある

舐めて貼る 切手に吃驚

平町の郵便局で一番古いのは二丁目の淸光堂しまの淸光堂書店でそこから三丁目鱗屋呉服店の處へ移つたと記憶して居る

その當時手紙を出しに行つた人が局員に切手の貼り方をきゝ『舐めれば良いのだ』と敎へられて之は何と不思議なものだ、と目を白黑させたと云ふ話があつたのをおぼえて居る（靑沼町長談）

快晴に惠まれて けふから山神祭
到る處歡樂の大饗宴場化

前後二日間亙り常磐各炭礦を擧げ、歡樂の大饗宴場化する山神祭は愈々今廿一日蓋あけされた、皐月に近い天は紺碧一色に晴れ渡つて春さへ咲く絕好の山神祭日和、これが例年の日取りで行つたなら終始雨に祟られ通したものを、と今年から祭典日を繰り下げ變更された事を喜ぶ全山の人達によつて祭り氣分は彌が上にも高潮された形ちである。午前十時各礦夫々嚴肅な參拜の式が行はれ、之が濟むと各々打寬いだ氣分で祭典の第一日の行樂に入つた、色々な催しものに炭況好轉の今年は明日も明後日も例年以上の賑ひを見する事であらう

常磐炭田視察に 滿洲國の一行 來郡
昨日各坑を歷訪歸還

滿洲國炭礦視察團、實業部鑛務司長陳怡、滿洲炭礦常務理事新內德三郎、撫順炭礦販賣部長弟子丸相造氏等二十名は二十日午前九時來郡鑛業所の案內で古河、磐城の兩坑を詳細視察し、淺野記念館で下野古河所長より常磐炭界の概況を聞いた後磐崎村第二磐炭、入山平發電所を歷訪して同日平町に一泊、今二十一日朝平發で出發した

平神谷間直通路 愈よけふから着工
近く役場內に事務所新築

平—神谷間直通路開設工事たる鎌田山開鑿並、鎌田橋換替工事は此程出張した內務省野村技師により着工準備を進めてゐたが、愈よ今二十一日から本格的工事に着手した、尙工事事務所は近く町役場內に工費三千圓を投じ新築されると

小名濱野球 ◇來月三日開く

小名濱町野球聯盟主催のスポンヂ野球大會は來月三日同町小學校に開くので一日主將會議を開く

二毛作品評會打合

石城郡農會の町村技術員會は二十四日午前九時から平團体事務所に開き二毛作品評會其他に關し協議する

水害豫防組合解散協議

平、飯野、內鄕三ケ村聯合水害豫防組合では二十一日午前十時から組合會を開き組合解散に伴ふ內鄕村地內廢川敷九百五畝步賣却の件を附議

唄ふ！關屋敏子
來月三日磐女講堂で ＝名曲プロ決る

磐城高女の同窓會櫻丘會では既報の如く來月三日の日曜をトし『日本のプリマドンナ』ソプラノ歌手關屋敏子女史を招き講堂落成祝賀を兼ねた獨唱會を催すがピアノ伴奏は女史のよき伴侶者である宮崎富子さんが當りプログラムを左の如く決定した、なほ當日は午後一時半開演で會員券八十錢櫻丘會員が既に發賣中である

〔第一部〕1『ジプシーの女は誰に』バイジエルロ作 2『印度の子守唄』リウランス作 3『ソルベーヂ』グリーク作 4『カピネラ』ベネジクト作

〔第二部〕日本歌劇『お夏狂亂』A B 關屋敏子作

〔第三部〕1『ばせう』小松耕輔作 2『餌差唄』關屋敏子作 3『うらの背戶屋』關屋敏子作 4『からたちの花』山田耕作作

〔第四部〕伊太利歌劇『リゴレツト』（美はしの御名）ベルチ作

第一遠足運動

平第一校では來る二十四日左記の如く月次運動會の遠足を行ふ

一—飯野村白土八幡宮 二—夏井村專稱寺 三—同大國魂神社 四—鹿島村鹿島神社 五—豐間村沼內辨財天 六—同鹽屋崎燈臺 高—大野村玉山鑛泉

關西へ！ 東海
磐女修學旅行 明二十二日出發

磐城高女四年生百六十一名は田中、新妻、赤木、石山、佐々木各敎諭引率の下に明二十二日早朝出發關西、東海方面へ修學旅行を行ふが日程左の如し

△廿二日 午前七時三十二分平發—上野（市內見學）東京發（車中泊）
△廿三日 山田驛著（大廟參拜）—二見（泊）
△廿四日 二見發—奈良（市內見學）—桃山（御陵參拜）—京都（泊）
△廿五日 京都市內見學（泊）
△廿七日 京都發—熱海著（泊）
△廿七日 熱海發—藤澤著（江ノ島、鎌倉見學）—東京—午後二時五十分上野發—同七時三十五分平著（解散）

花の松ケ岡から 唄ひ舞ふ糸姬四百
あす片倉のお花見

比較的早い新川土堤から表公園入口附近の櫻はいよ〳〵パツ！と咲いて春のうらゝ陽に映ゐてゐる、每年獨特の演技に異彩を放つてゐる磐城倉片製糸從業員のお花見も明廿二日賑やかに行ふ事となつた、當日は思ひ〳〵の裝ひをこらした糸姬約四百名に男工六十名を加へた一行が午前九時工場を出發、町をねつて漸次會場である第一公園忠魂碑前の廣場に集合それからいよ〳〵開宴、娘子群總動員の手踊り等で一日を樂しく送ると云ふ寸法だと云ふ

鷄百羽丸燒け
きのふ植田の晝火事

二十日午後零時四十五分植田町字町後五二雜貨商佐藤丑藏方鷄舍から發火全燒し同一時鎭火したが其際飼育中の鷄百羽を燒死した、原因は人口孵化器のランプの不始末で損害約三百圓

種牡馬に 獎勵金交付
郡下で二十九頭

石城產馬畜產組合の十年度種牡馬飼育奬勵金は此程農相から郡下二十九頭に一頭當り百八圓づゝ交付されたが飼育者左の如し

田人油座末吉 上遠野伊藤精八 貝泊蛭田千代之助 入遠野鯨岡正記 磐崎北郷三郎平 田人綠川鐵之助 入遠野吉田林之助 同佐藤兎子代 荷路夫野崎辰藏 上遠野山野進 入遠野樋口由太郎 渡邊高木武子 田人小牧敏元 澤渡若松吉 三阪永山久助 同會田政治 大竹義隆 秋山政榮 佐藤務 永戶合津功 箕輪片寄秀次 三阪大竹茂 內鄕加藤丈夫 上小川草野寅伊 川前矢內伴藏 松本仁四郎 根本繁與

市制を布くには
先進地銚子足利を觀る △生

九

地上の生殖腺さへ膨脹して盛んにホルモンを分泌し人の世は擧げて狂はん許りな興奮の坩堝に奔放な酩酊狀態を呈して居る昨今の花見季節に、乾燥無味な數字の行列でもあるまい。而も『もろともに』なる一首を殘して飄然遍路に出た所謂乞食の道中手間ひまに介意はぬ西行の悠長な旅と異り風を切るフオード××型に猛烈な埃の煙幕を引き乍ら明日行つて今日歸つた慌だしい視察である、大して材料のあらう筈無く、銚子の卷は以上に止めて更に筆を足利市の領分に進める

市の中央部近く織姬山月見ケ丘に起つて俯瞰する。

織都足利の景觀手に取る如く、遙かに遠ひ上る街の雜音にもそれと頷かるるこの市の飛躍的活氣ではある

野州足利機織ごころ
日がな明け暮れ
トントンカラリヨ
機の音 カヨエ
エ、サテしよんがいな

『日がな明け暮れトントンカラリヨ』によつて織り出さるるモダン織物年額三、四千萬圓、京の鴨川が西陣織を育むやう、渡良瀨川の淸流にさらす足利本銘仙、足利錦紗——

雲はあかねに
渡良瀨暮れて
紅い灯がつきや
足利の
街は思ひの色糸を
ほぐし模樣にそめかかる
（長田幹彥作織姬おどりの一節）

その情景によつて想像して欲しい。更に彼女らは唄ふ

機場育ちの十六娘
色は黑ても氣は朗ら
主とわたしは月と影
はなれまいぞと縺れ糸

兩崖山の山懷ろに抱かれて淸流を前にし、千年の文化の傳統的香り、其氣品あり實質的に優秀なる足利織物が今や全國機業界の寵兒として到る處に最高級の讃辭を浴びてゐる。其の技術加工は他の絕對に追隨を許さぬ特色で『西に京都、東に足利』は足利つ子にとつて敢ていわしが國さの自慢話ではない

一方輸出織物に於て逐年盛況に向ひ、別してスパンクレープの如きは遠く海を越えて南洋印度濠洲英米佛伊殆ど行くとして可ならざる處無き躍進振りを示してゐる。是等織物の統制機關として足利織物同業組合があり、栃木縣立足利工業試驗場、同工業學校等が足利織物のかげに營々日も足らぬ精進をつゞけてゐる

この市の織物こそは我が平町に於ける石炭の役割りを勤むる以上、譬へば富民協會表彰の多產雞の如く、每日欠かさず、後から〳〵無制限に織物が生產して行く。さてこそ昨十年正月元旦の市制實施、目ざましい伸展と云はねばならない

春に浮れる人々で
ガ車日每に繁昌
來日曜は公園側に停車

公園の花より一足お先きにデヴユーした平驛を中心とするガソリンカーは既報の如く去る十五日より運轉を開始したので目下關係町村間では之が停留場設定の準備を急いでゐる、運轉開始以來の平驛乘降者を見ると

	乘	降
十五日	四二六	二八六
十六	六一四	三五
十七	九九一	四三一
十八	八一一	六一
十九	六一三	五五二

で運轉時刻も徹底したので漸く利用者の增加を見てゐる來る二十六日の日曜は花もいよ〳〵滿開季になるので驛では町當局と連絡して養公園附近に臨時停車せしめ花見る人々の便宜を圖る事となつた

花に添へて 仕掛花火

平町一丁目平銃砲火藥店渡邊賢一氏は花の公園に精彩を添ゐるため町役場に仕掛花火二本を寄附、これを來る二十五日夜八時と八時半二回に亙り演藝場附近で打揚げる事になつたが花火はナイヤガラと菊花園の何れも美しいものであると

身若し成らずんば？
借着して歸鄕した靑年 再三の催促にも知らぬ顏

男子志をたて鄕關を出づ、身若しならずんば借り着して—飯野村谷川瀨農渡邊吉作と云ふ二十才の靑年、去る一月東京市豐島區巢鴨町二丁目の某酒店に奉公、一たん歸鄕の際『せめて身なり丈けでも……』と同僚の齊藤秀雄（三五）からオーバ、チヨッキを借り受けて意氣揚々？歸鄕したが其後再三の催促にも返さぬので二十一日秀雄から平署へ『何とかして下さい』と願ひ出て來た

天候不順の昨今 傳染病に御用心
平署で撲滅對策に腐心

春！傳染病にも警戒の事—平署管內に於ける去月末現在のその數を見ると腸チフス二〇名 パラチフス二 ヂフテリヤ三七（內一名死亡） 猩紅熱八 赤痢五（內二名死亡） 腦一 計七三名で過般來の天候不順から愈々蔓延の兆があるので同署では昨二十日開かれた衞生主任會に際しこれが保菌者の早期發見並に豫防消毒の徹底に關し種々協議した

天氣豫報 小名濱測候所觀測

今晚は南の風晴後曇、明日は南東の風曇後雨

詐欺男一年
けふ平區の判決

當時小名濱町古港日雇業宮城縣名取郡岩沼町南生れ前科三犯大村甲二（三五）に係る文書僞造行使詐欺横領事件は今二十一日午前十一時から平區で野木判事係り淸田檢事關與公判開廷、求刑通り懲役一年を言渡された

甲二は昨年十一月中、下神白の田中某の名儀で同町山本愛之助雜貨店宛使ひの者にゴザ四枚ザク炭一俵を渡して貰いたい旨の書面を僞造自身山本方に出向いて右を詐取した外數回同樣の詐欺を働き又同町佐藤良助から賴まれた自轉車（價格四十圓）を勝手に入質費消する等の惡を働いた者である

小名濱弓場改築

小名濱町弓道會では弓場改築資金造成のため近く木村友江師を招き同町磐城座で浪曲大會を催す

理想的 栗の接木
平營林署で普及講習

平營林署永戶擔當區森林主事太田良一、菊地三代榮、德永匡、松崎武夫の四氏は來月四日富岡營林署管內淸田國有林內で開かれる『栗の接木講習會』に出席（講師秩父營林署雨宮主事）受講後擔當區たる永戶國有林內で同樣講習會を開き理想的接木の指導に努める事になつたと

火藥事務打合會延期

平署管內火藥取扱關係者の火藥事務打合會は來月八日開く筈であつたが十五日に延期され、縣から山崎保安課長臨席

野木左內氏

磐崎村々議同村小野田郵便局長野木左內（五四）氏は心臟病で療養中去る十七日午前七時遂に死去した

た披露目

春は飽く迄藝者跳躍の季節である。昨日も新妓一名 久本から小いくと名乘つて出現

二十二日
日出 四、五六 月出前 四、五六
日沒 六、一六 月沒後 七、二〇
滿潮 前三、〇五 後四、五〇
干潮 前一〇、一五 後一〇、二五

新曆 四月二十二日 水曜
舊 三月二日 甲戌 佛滅 破 參宿

▲一白 出來る丈の働きに安んじて深よくせざる事▲二黑 人事は成るべく手を控へ自己安全を期せよ▲三碧 守る事が先にせざれば又に乘ぜられ易し▲四綠 守勢を執り表に現れずちん默するが無事の日▲五黃 座談より漁炭に窮する程の大事を生ずる日▲六白 健全なる步調を取れば忿がずとも遂せらる▲七赤 大抵の事は成功すべき吉 辯舌を愼むべし▲八白 他に出ての周旋事は不結果に終り易き日▲九紫 一くわく千金を夢る時は屋根もはぎ去らるべし

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

各種 恩給年金の立替
一 軍人恩給
一 文官恩給
一 鐵道年金
右低利ニテ立替ノ求ニ應ズ。
石城郡植田町字本町二六 押田憲一事業部
平町古鍛冶町九〇 平町出張所 電話一九〇番

お花見に 踊り付レコード
花見おどり
櫻行進曲
うかれ櫻
花見踊りの講習致します
平町五丁目 金光堂時計店 電話一九五番